



# 2023年3月期 決算説明

証券コード：6908

2023年5月9日

**イリソ電子工業株式会社**  
IRISO ELECTRONICS CO.,LTD.



 **I. 2023年3月期 連結決算概要**

**II. 2024年3月期 連結決算見通しと  
中期経営計画進捗状況**

**III. パーパス、CSR方針**

**IV. トピックス**

# 1. 2022年度 業績のポイント

- 車載パワートレイン、コンシューマ市場の牽引により、売上高は529億円、前期比+20.6%と過去最高を達成。
- 売上拡大、収益構造改善の取組みにより、原材料高騰等を吸収し、営業利益は69億円、前期比+53.5%、営業利益率13.1%まで回復。当期純利益は過去最高を達成。

単位：百万円

	2021年度	2022年度	前年比	期初計画比	修正計画比
売上高	43,863	52,903	+9,040 +20.6%	+1,403 +2.7%	△1,096 △2.0%
営業利益	4,520	6,940	+2,419 +53.5%	+780 +12.7%	+190 +2.8%
営業利益率	10.3%	13.1%	+2.8pts	+1.1pts	+0.6pts

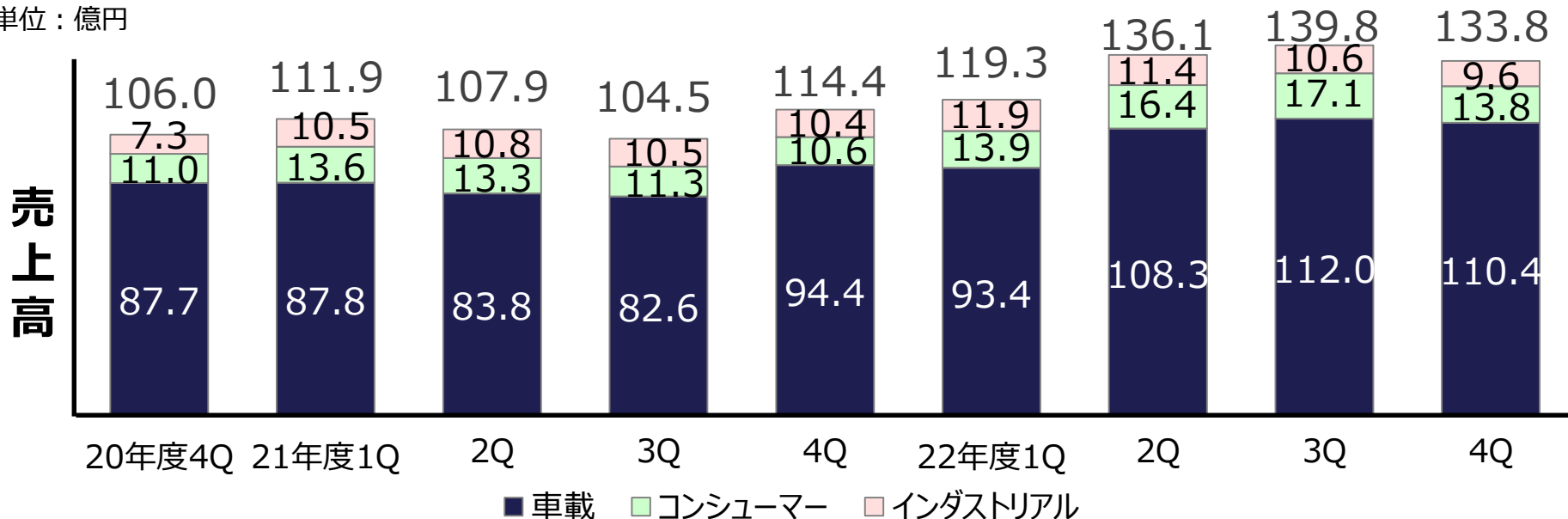
## 2. 2022年度 連結決算の概要

単位：百万円

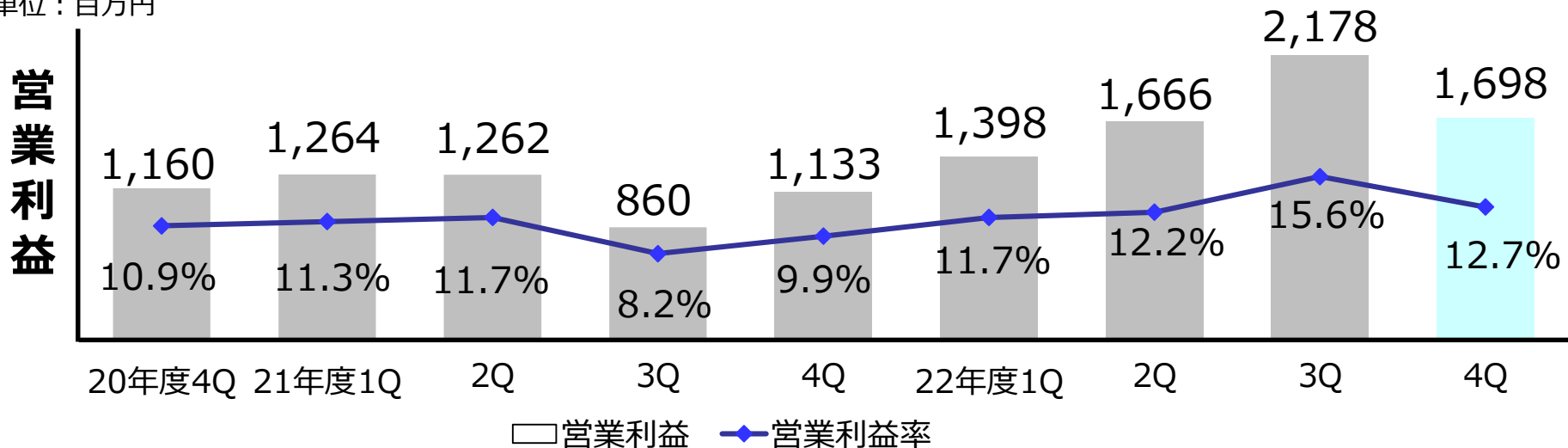
	21年度 累計	22年度 累計	増減額	増減率	修正計画比
売上高	43,863	52,903	+9,040	+20.6%	△1,096
車載	34,756	42,409	+7,653	+22.0%	△1,290
コンシューマー	4,884	6,141	+1,257	+25.7%	+341
インダストリアル	4,223	4,352	+129	+3.1%	△147
売上原価	29,520	35,578	+2,981	+20.5%	
売上原価率	67.3%	67.3%		+0.0pts	
販売管理費	9,822	10,384	+561	+5.7%	
販売管理費率	22.4%	19.6%		△2.8pts	
営業利益	4,520	6,940	+2,419	+53.5%	+190
営業利益率	10.3%	13.1%		+2.8pts	
税引前利益	4,570	7,034	+2,463	+53.9%	+134
純利益	3,913	5,541	+1,628	+41.6%	+41
EPS	166.22円	235.58円			
設備投資	6,172	8,427	+2,254	+36.5%	△1,572
減価償却	5,356	6,168	+812	+15.2%	△831
為替レート	ドル：112.86円	134.95円	+22.09円	+19.6%	△3.83円
ユーロ	131.01円	141.24円	+10.23円	+7.8%	△0.42円
期中平均	元：17.59円	19.68円	+2.09円	+11.9%	△0.22円

# 3. 四半期別売上高・営業利益推移

単位：億円



単位：百万円



# 4. 地域別・製品別売上高

## ■ 地域別

単位：百万円

	21年度		22年度		前年比
	売上高	構成比	売上高	構成比	
日本	10,833	24.7%	10,035	19.0%	△798
中華・韓国圏	14,583	33.2%	21,294	40.3%	+6,711
アメリカ	5,465	12.5%	6,304	11.9%	+839
欧州	7,179	16.4%	8,377	15.8%	+1,198
ASEAN	5,801	13.2%	6,891	13.0%	+1,089
<b>合計</b>	<b>43,863</b>	<b>100.0%</b>	<b>52,903</b>	<b>100.0%</b>	<b>+9,040</b>
海外比率		75.3%		81.0%	

## ■ 製品別

単位：百万円

	21年度		22年度		前年比
	売上高	構成比	売上高	構成比	
BtoB	19,524	44.5%	21,598	40.8%	+2,073
FPC	9,164	20.9%	11,710	22.1%	+2,545
車載IF	11,109	25.3%	15,415	29.1%	+4,305
ピンヘッダー	1,765	4.0%	2,222	4.2%	+457
その他	2,298	5.2%	1,957	3.7%	△341
<b>合計</b>	<b>43,863</b>	<b>100.0%</b>	<b>52,903</b>	<b>100.0%</b>	<b>+9,040</b>

### 日本

- ・完成車メーカー並びに産業機器生産調整により減収

### 中華・韓国圏

- ・パワートレイン分野の継続拡大

### 欧州

- ・為替影響除き、成長に転ずる

### BtoB

- ・“Z-Move®”堅調に拡大
- ・高速伝送対応の新製品納入開始

### 車載IF

- ・パワートレイン分野が牽引

# 5. 対前年比 売上・営業利益変動

単位：百万円

	売上高	営業利益	営業利益率	要因
21年度 実績	43,863	4,520	10.3%	
為替影響	+5,138	△252		USD: 112.86円→134.95円、120% EUR: 131.01円→141.24円、108% CNY: 17.59円→19.68円、112%
物量増減	+4,442	+1,920		
材料費増減		△650		1Q△290、2Q△190、3Q△70、4Q△100
固定費増減		△500		人件費、償却費増
上海ロックダウン影響	△540	△180		売上減、関係経費
原価低減他		+2,081		原価低減、価格適正化他
変動要因計	+9,040	+2,419		
22年度 実績	52,903	6,940	13.1%	

## 6. 連結貸借対照表の状況

単位：百万円

	21年度	22年度	前年末比
流動資産	40,436	46,194	+5,758
現金及び預金	14,066	18,640	+4,574
売掛債権	12,889	13,956	+1,067
棚卸資産	11,592	12,067	+474
固定資産	32,716	36,297	+3,580
資産合計	73,153	82,491	+9,338
負債合計	11,376	14,472	+3,095
買掛債務	4,504	4,364	△140
借入金	410	2,493	+2,083
純資産合計	61,776	68,019	+6,242
株主資本計	54,660	58,787	+4,127
自己資本比率	83.8%	81.7%	△2.1pts



# 7. 連結キャッシュフローの状況

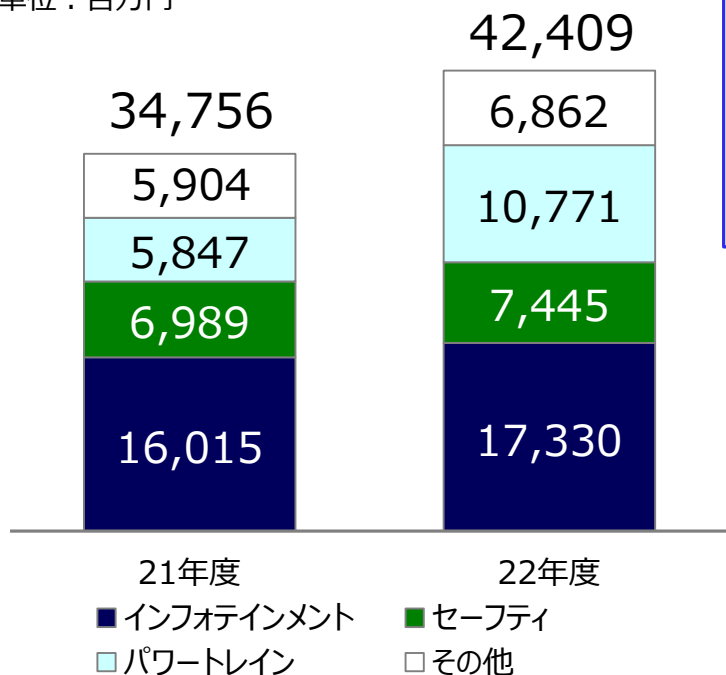
単位：百万円

	21年度	22年度	増減
営業キャッシュフローマージン率	15.3%	22.0%	+6.7pt
営業キャッシュフロー	6,691	11,613	+4,921
当期純利益	4,570	7,034	+2,463
減価償却費	5,356	6,168	+812
運転資金増減(△は増加)	△3,183	△990	+2,193
投資キャッシュフロー	△6,248	△8,179	△1,930
有形固定資産	△5,438	△7,105	△1,666
フリーキャッシュフロー	442	3,433	+2,991
財務キャッシュフロー	△1,611	516	+2,127
配当金	△1,183	△1,420	△236
現金及び現金同等物期末残	14,066	18,640	+4,574

# 8. 市場別売上 オートモーティブ(車載)

## ■ 前年比+7,653百万円 (+22.0%)

単位：百万円



- ・グローバルでの完成車生産台数は、半導体不足等で未だ正常化には至らずも、xEVは当社計画通り伸長し、中国や欧州市場を中心に事業拡大
- ・4Qは中国にて一部生産、在庫調整あり

### インフォテインメント

- ・高速伝送対応可動BtoBコネクタ「10143シリーズ」の納入開始

### パワートレイン

- ・xEVの増加を背景に、前期比+84%と好調
- ・バッテリー関連に加え、充電器向けも増加。

	21年度				22年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
インフォテインメント	4,221	3,965	3,731	4,097	3,971	4,565	4,401	4,392
セーフティ	1,754	1,590	1,690	1,954	1,803	1,946	1,843	1,852
パワートレイン	1,260	1,343	1,516	1,727	2,092	2,496	3,186	2,996
その他	1,542	1,478	1,322	1,560	1,470	1,820	1,773	1,799
<b>合計</b>	<b>8,778</b>	<b>8,376</b>	<b>8,261</b>	<b>9,339</b>	<b>9,337</b>	<b>10,828</b>	<b>11,204</b>	<b>11,039</b>

# 9. 市場別売上 コンシューマー、インダストリアル

## ■コンシューマー市場：前年比+1,257百万円 (+25.7%)

単位：百万円

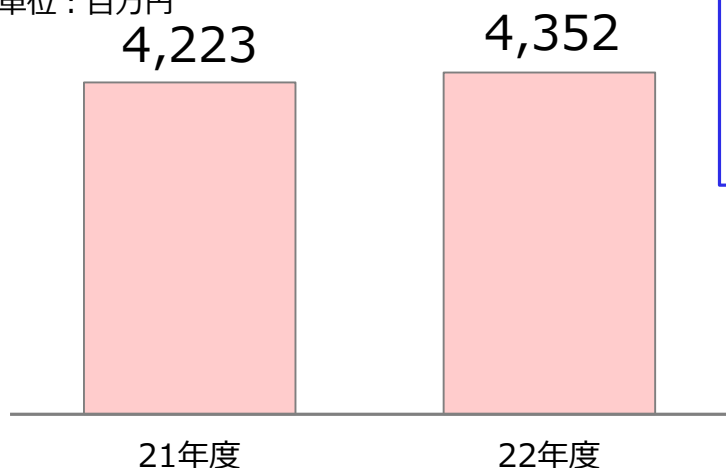


・複合機、並びにゲーム機向けの売上拡大

21年度				22年度			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
1,361	1,331	1,131	1,060	1,398	1,647	1,710	1,385

## ■インダストリアル市場：前年比+129百万円 (+3.1%)

単位：百万円



・上期は中国の設備投資需要によるPLC等のFA機器向けや5G基地局向けが好調  
 ・3Qからは調整局面へ

21年度				22年度			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
1,047	1,083	1,053	1,039	1,193	1,138	1,060	960



**I. 2023年3月期 連結決算概要**

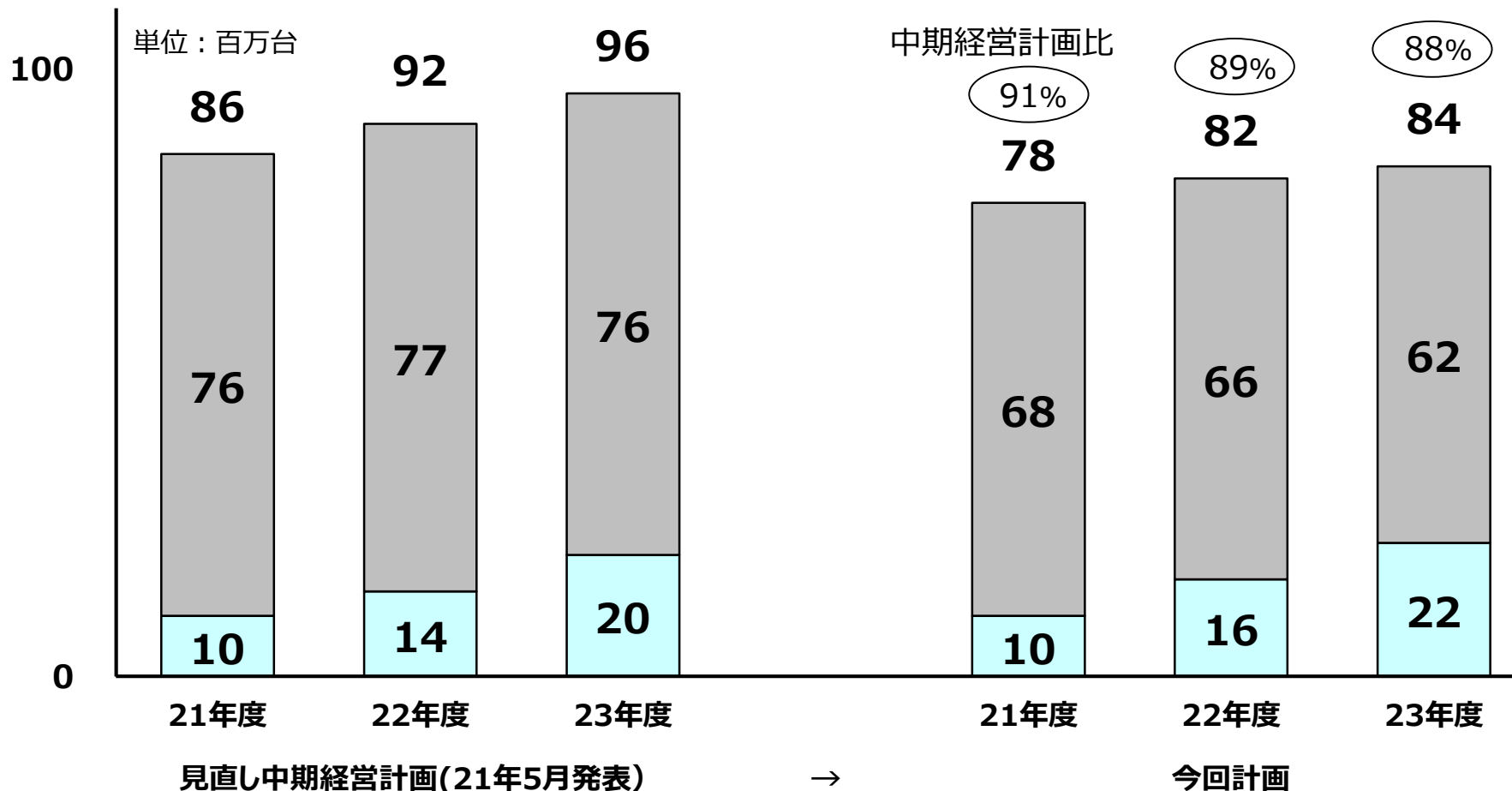
 **II. 2024年3月期 連結決算見通しと  
中期経営計画進捗状況**

**III. パーパス、CSR方針**

**IV. トピックス**

# 1. 世界自動車生産台数見直し 当社推定

- ・グローバル生産台数は、22年8,200万台から緩やかであるが8,400万台、前年比2.4%の成長
- ・xEVは、21年度見直した中期経営計画を超える成長、23年度は自動車生産の25%を超える構成まで成長



□ xEV(EV、FCV、PHV、HEV、HV)

■ xEV以外

(富士キメラ総研・銀行・証券等各社のレポートを参考に当社作成)

## 2. 2023年度 業績予想

単位：百万円

	22年度	23年度	前年比
売上高	52,903	55,000	+2,096 +4.0%
売上原価率	67.3%	67.0%	△0.3pts
営業利益	6,940	7,700	+759 +10.9%
営業利益率	13.1%	14.0%	+0.9pts
税引前利益	7,034	7,350	+315 +4.5%
当期純利益	5,541	5,700	+158 +2.9%
EPS	235.58円	244.00円	
為替レート	134.95円	130.00円	△4.95円
期中平均	141.24円	140.00円	△1.24円
	19.68円	19.50円	△0.18円
設備投資	8,427	10,000	+1,572
減価償却	6,168	6,500	+332

### 3. 対前年比 売上・営業利益変動

単位：百万円

	売上高	営業利益	営業 利益率	要因
22年度 実績	52,903	6,940	13.1%	
為替影響	△1,000	+0		USD: 134.95円→130.00円、96% EUR: 141.24円→140.00円、99% CNY: 19.68円→19.50円、99%
物量増減	+3,096	+1,250		
材料費増減		△400		金、銅価格影響
固定費増減		△1,300		人件費、償却費、ERP立ち上げ費用増
原価低減他		+1,209		原価低減、事業リスク他
変動要因 計	+2,096	+759		
23年度 計画	55,000	7,700	14.0%	

**生産調整は、上期にかけて続く見通し。地政学、景気下振れ等リスクはあるが、売上拡大、収益構造改革を推進し、営業利益率の更なる向上を目指す**

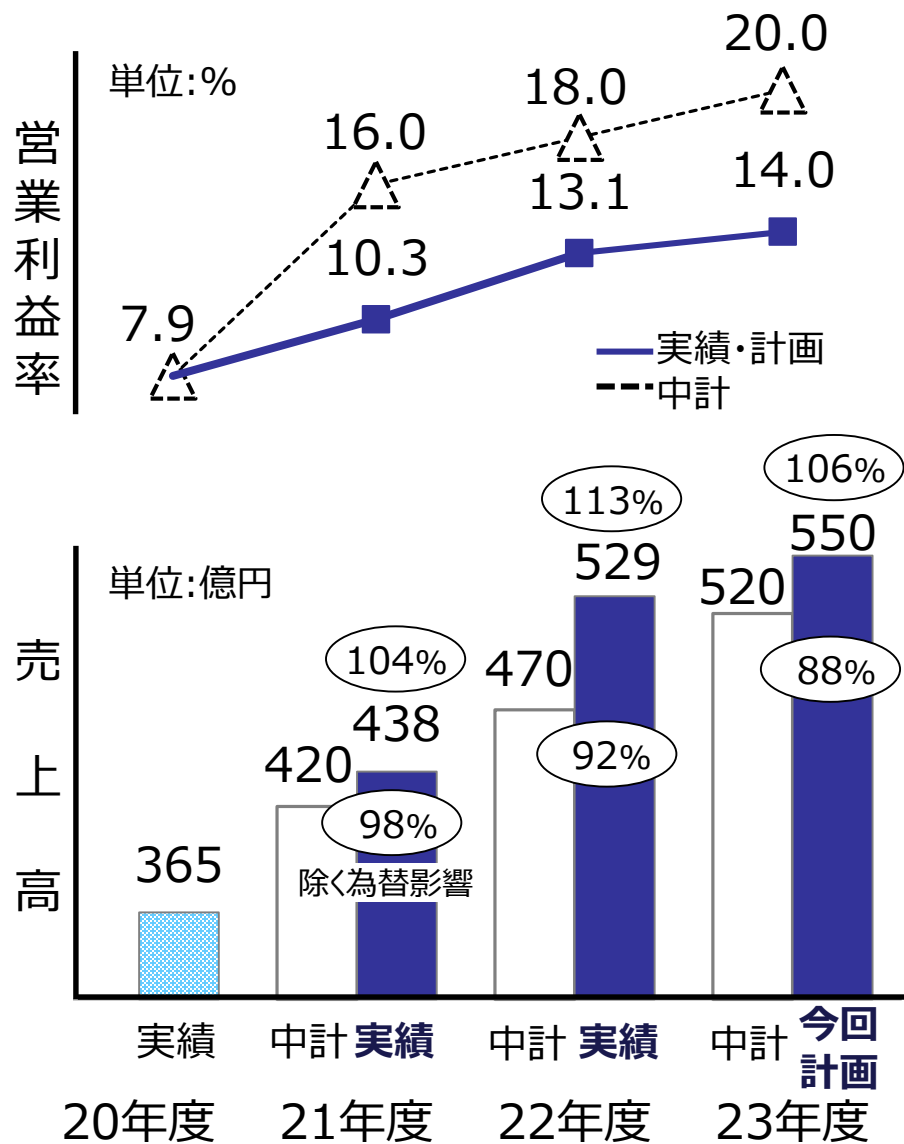
# 4. 2023年度 市場別売上高計画

単位：百万円

	21年度		22年度		23年度		
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	前年比
車載計	34,756	79.2%	42,409	80.2%	45,700	83.1%	+7.8%
インフォテインメント	16,015	36.5%	17,330	32.8%	18,000	32.7%	+3.9%
セーフティ	6,989	15.9%	7,445	14.1%	7,500	13.6%	+0.7%
パワートレイン	5,847	13.3%	10,771	20.4%	13,200	24.0%	+22.5%
その他	5,904	13.5%	6,862	13.0%	7,000	12.7%	+2.0%
コンシューマー	4,884	11.1%	6,141	11.6%	5,300	9.6%	△13.7%
インダストリアル	4,223	9.6%	4,352	8.2%	4,000	7.3%	△8.1%
合計	43,863	100.0%	52,903	100.0%	55,000	100.0%	+4.0%



# 5. 21~23年度中期経営計画の進捗



- 自動車生産はコロナ影響並びに部品不足により低迷。  
23年度：中計96M台→今回計画84M台、中計比88%
- 自動車市場は低迷するが、xEV市場拡大を中心にパワートレイン分野拡大と円安により、売上高は上振れ
- 営業利益率は、操業度減、原材料・輸送費高騰影響等により未達。22年度より収益構造改善プロジェクトを推進

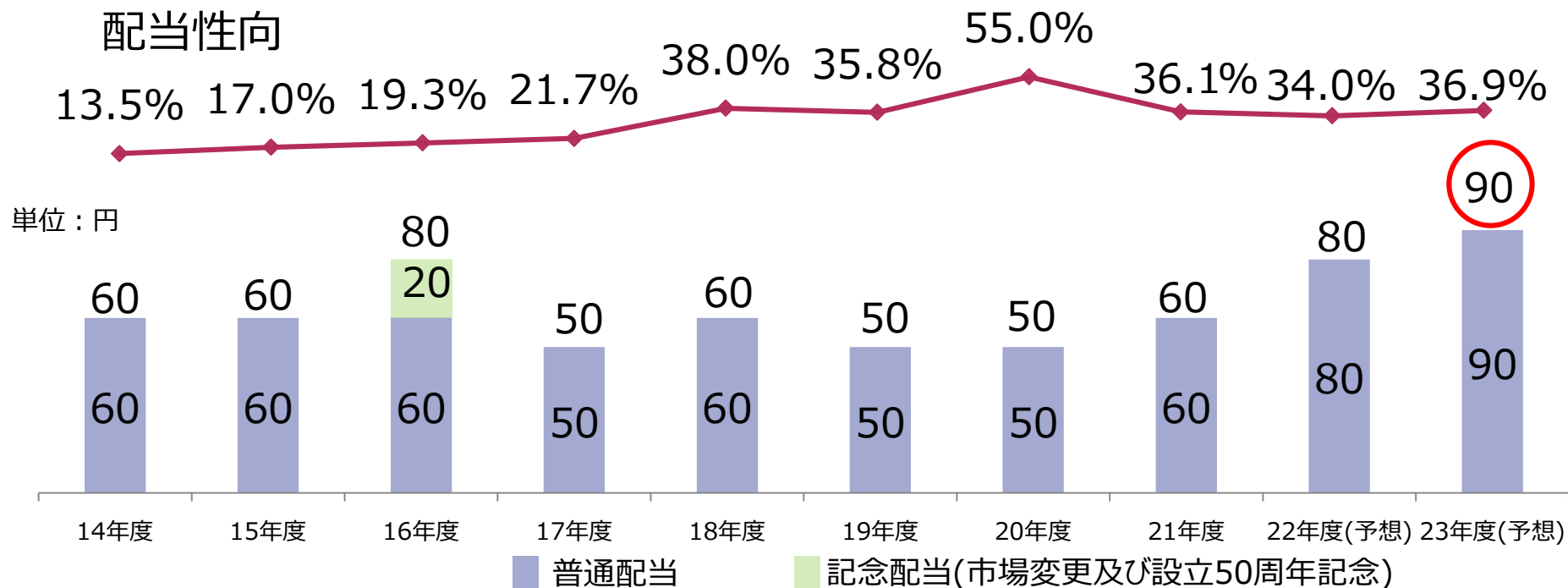
為替前提	20年度	中期経営計画	21年度実績	22年度実績	23年度今回計画
USD	106.17円	105.00円	112.86円	134.95円	130.00円
EUR	123.73円	127.00円	131.01円	141.24円	140.00円
元	15.63円	16.00円	17.59円	19.68円	19.50円

項目	内容
<p><b>①収益構造改善プロジェクトの刈り取り</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価格政策の見直し、ロングテール対策</li> <li>・主力製品の原価低減</li> <li>・生産性向上、物流費改革他</li> </ul>
<p><b>②戦略製品ラインナップ強化</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車載xEV向け新製品投入による更なる深耕</li> <li>・次世代高速伝送対応コネクタの開発</li> <li>・車載カメラ向け製品ラインナップの強化</li> <li>・統合ECU向けコネクタの開発</li> </ul>
<p><b>③営業力強化</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高速伝送対応コネクタの全市場への展開</li> <li>・インダストリアル市場拡販のためのリソース強化</li> <li>・インド・東南アジア地域における営業体制強化</li> </ul>
<p><b>④生産能力拡大、BCPの強化</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花巻工場：2023年11月稼働の実現 →金型内製化強化</li> <li>・秋田工場：2025年稼働に向けPJ実行</li> </ul>
<p><b>⑤新ERPシステムの円滑な立ち上げ</b></p>	

# 7. 株主還元

- ・配当予想:22年度は当初予想60円から80円に増配、23年度は90円配当を予定
- ・配当方針:安定配当並びに配当性向30%以上を継続
- ・事業拡大に向けた投資資金は今後も継続して必要となるが、長期ビジョンのROE10%超を実現するため、成長のための投資資金確保とのバランスを考慮し、資本政策の見直しを積極的に推進して参ります。


※2017年9月に1:2の株式分割を行いました。  
16年度以前は2分割前の金額を記載しております。





**I. 2023年3月期 連結決算概要**

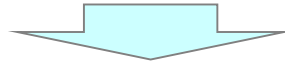
**II. 2024年3月期 連結決算見通しと  
中期経営計画進捗状況**

 **III. パーパス、CSR方針**

**IV. トピックス**

# 1. 存在意義、社会で実現したいこと

**経営理念：** **-未来に続く架け橋として-**  
**人の心を尊重し豊かな価値を創り社会貢献に努める**



経営理念を、パーパス(存在意義)とドリーム(社会で実現したいこと)として具体化

**Statement：**  
**私たちは、社会やお客様の期待を超える「つなげる」を実現します**

**Purpose (存在意義)：**

**私たちは、お客様の声と提案力で、電路をつなぐ、安心、安全、快適な接続を創造する**

**Dream (社会で実現したいこと)：**

**「つなげる」を深化させ、人と環境にやさしく、様々な機能を容易につなげる未来を創造**

- ・高品質なコネクタ：法令遵守、品質第一、お客様からの信頼保持
- ・省人化への貢献：自動組立を実現する、フローティング技術の深化
- ・省資源への貢献：軽量化を実現する、小型化・複合化技術の深化

### CSR方針：“地球のもったいない”を解決する

“もったいない”はReduce Reuse Recycle(3R)のみを指す言葉ではありません。

人財・時間・空間…イリソが目指すCSRとは、事業を通じてそんなもったいないをなくすことです。

わたしたちはグループの知恵(技術)と熱意を結集して社会、顧客、社内の“もったいない”を積極的に見つけ、解決策を見出し、世の中に広め、変化を産み出します。

- ・イリソの事業活動自体が社会貢献や環境・社会課題の解決に寄与  
→当社コネクタの活用が、お客様の作業性向上、作業時間削減、機器の小型軽量化、ロボットによる自動組立化にを実現し、省資源、省エネ、労働人口減少対応に貢献
- ・当社のCSRを「社会との共存、社会貢献」と改めて定義し、CSRの実践が当社事業を成長させる原動力と認識し、“サステナブル企業”を目指す



**I. 2023年3月期 連結決算概要**

**II. 2024年3月期 連結決算見通しと  
中期経営計画進捗状況**

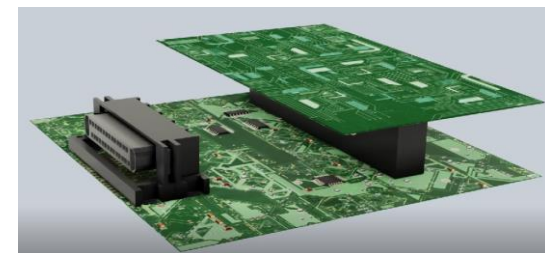
**III. パーパス、CSR方針**

 **IV. トピックス**

## ■「人とくるまのテクノロジー展 2023 YOKOHAMA」出展

- ・5月24日(水)～5月26日(金)にパシフィコ横浜で開催される「人とくるまのテクノロジー展 2023 横浜」に初出展
- ・xEVに向けた軽量化、ADAS機器の統合化を実現する新製品を展示

*Automotive Engineering Exposition*  
**人とくるまのテクノロジー展  
 YOKOHAMA 2023**



## ■相鉄・東急 新横浜線「新横浜駅」に広告看板を掲出

- ・3月18日に開業した相鉄・東急 新横浜線の「新横浜駅」北改札口に広告を掲出
- ・新横浜を本社に持つIRISOが、新横浜の街の暮らしと、オフィシャルスポンサーとして、横浜F・マリノスを応援する気持ちを表現





会社名	イリソ電子工業株式会社
事業内容	各種コネクタの製造・販売
設立年月	1966年12月
社員数	3,104名(2023年3月31日現在)
資本金	5,640百万円(2023年3月31日現在)
本社	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営業拠点	
国内	本社、福島県、茨城県、愛知県、大阪府
海外	シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国(上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶)、台湾、インド
研究開発	本社(イリソテクノロジーパーク)、 川崎(生産技術センター)、岩手県、上海R&Dセンター
工場	茨城県、中国(上海、南通)、フィリピン(マニラ)、 ベトナム(ハイズオン)

## コネクタの種類

### 基板対基板コネクタ (BtoBコネクタ)

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ(ボードtoボードコネクタ)とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B (ビー・ツー・ビー)は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

### FPC/FFCコネクタ

FPC基板(Flexible printed circuits)やFFCケーブル(Flexible flat cable)の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF(Zero insertion Force)タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

### IFコネクタ

IFとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O(インプット/アウトプット)コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面(裏・表面)に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

### ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン(電導体)”をハウジング(樹脂材でできた絶縁体)で支えたプラグ(オス側)コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続(基板間接続)に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみにより依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。